

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>1 未来を見つめながら地域や社会とつながる開かれた学校 →<u>たのしく</u> 本物に、地域等に、時代の動向に接する教育活動を展開する学校</p> <p>2 個を大切に、児童・生徒一人ひとりの自己実現をめざす学校 →<u>ゆたかに</u> 小学部から継続的系統的にキャリア教育を行い、児童・生徒の社会的自立を支援する学校</p> <p>3 豊かな学校力を備え、信頼される安全で安心な学校 →<u>げんきよく</u> 人権尊重のもと、児童・生徒が明るく元気に教育活動を行うことができる安全・安心な学校</p>
--

2 中期的目標

<p>1 《たのしく》 支援学校における教育力の向上、センター的機能の発揮と組織としての専門性の向上 (1) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用を充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を促進する。 (2) 障がいのある児童生徒の特性と到達度を踏まえた指導内容・方法を検証し、授業を改善して質を向上する。 (3) 地域支援を充実させ、地域の支援教育力の向上に資するとともに校内の支援教育力のさらなる向上。 (4) 教職員の組織的・継続的な育成のため、校内研修や外部研修を活用して初任者や経験が少ない教職員、及びミドルリーダーの育成を行う。</p> <p>2 《ゆたかに》 自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実 (1) 全(小中高)学部において、キャリアマップを意識した実践をし、キャリア教育を充実する。 (2) 教員の就労支援に関する実践力を強化し、早期からの企業や事業所等の見学、実習を実施し、進路先の拡大をはかる。 (3) 障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進。 *保護者向け、教職員向けの学校教育自己診断の「進路」に関する項目を毎年3%向上させ、令和4年度には肯定的評価を85%以上にする。</p> <p>3 《げんきよく》 人権尊重のもと、安全・安心な学校づくりの推進 (1) 一人ひとりの人権を尊重し、いっそう安全・安心な学校づくりを推進する。 (2) 危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ地域やPTAと連携しながら防災教育を実施する。 (3) 機動力がある学校運営により、働き方改革を実行する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 学校教育自己診断 ^{〔児童〕} ：児童生徒向け ^{〔保〕} ：保護者向け ^{〔教〕} ：教員向け	自己評価
<p>専門性の向上</p> <p>《たのしく》支援学校における教育力の向上、センター的機能の発揮と組織としての</p>	<p>(1) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の促進。</p> <p>ア 教育支援計画様式更新。 イ 個別の指導計画は、目標と指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(2) 障がい特性に応じた指導内容・方法の構築。</p> <p>ア 授業改善及び質の向上。 イ ICTを活用した授業。 ウ 情報リテラシーの育成。</p> <p>(3) 地域及び校内の支援教育力向上。</p> <p>ア 地域支援の充実。 イ 支援教育理解講座やケース会議の開催。 ウ 教育情報の提供。</p>	<p>ア. 首席、進路部、支援研究部が連携して、移行支援計画、キャリアパスポートを含めた新様式で実施する。 イ. 完成したシラバスをもとに評価の3観点を明確にした記述。</p> <p>ア. 研究授業の充実。 イ. 校内研修、公開講座、実践報告会実施。 ウ. 生徒、保護者に対して外部講師を招いて研修を実施。</p> <p>ア. コーディネーター、リーディングスタッフの訪問・来校相談、ケース会議のアドバイスを充実させる。 イ. 校内支援の充実。学部を越えてケース会議を実施する。 ウ. OT、PT、ST、SCを含めて支援教育に関する情報の提供。</p>	<p>(1) ア. 新様式を1学期に完成させる。 イ. 評価の3観点が分かるように起案する。 ・^{〔教〕}「個別の教育支援計画、個別の指導計画」に関する項目 80%維持。(H29:74%、H30:81% R1:80%) (2) ア. 研究授業を10回以上実施。(H30:13回、R1:17回) イ. ICT活用者70%以上。(R1:60%) ウ. 参加者アンケートで関心が高まったかどうか確認する。 ・^{〔教〕}「授業」に関する項目 90%維持。(H29:88%、H30:88%、R1:90%) ・^{〔保〕}「授業」に関する項目 85%以上維持。(H29:85%、H30:85%、R1:90%) (3) ア. 訪問・来校相談回数 60回。(H30:65回、R1:42回) イ. 年度内課題を80%以上解決。 ウ. 専門職のアドバイスを学部会で共有して、指導に役立てる。学部会記録で、確認する。</p>	

<p>《2ゆたかに》自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 全学部において、キャリアマップを意識してキャリア教育を実践する。</p> <p>ア 自己肯定感を有する児童・生徒の育成。 イ 全学部において、高等部卒業後の進路先である事業所や企業について学ぶ機会をつくる。</p> <p>(2) 高等部の就労支援に関する実践力を強化。</p> <p>(3) 障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進</p>	<p>ア. 児童・生徒が、自分の得意不得意を知り、得意を伸ばす取り組みを行う。 イ. 進路部が夏季休業を利用して、全校の教員向けに事業所や特例子会社等の見学会を実施する。</p> <p>(2) 2年生職業コースの学級編成の変更。学年進路が中心となり、学年全体で就労支援を実施。</p> <p>(3) 文化芸術活動にも積極的に参加する。また、スポーツの課外活動に加えて文化芸術活動も継続。</p>	<p>(1) ア. 学期ごとの総合所見で管理職が確認 ・<u>「児童」</u>「進路」に関する項目 48% →50% (H29:44%、H30:37%、R1:48%) イ. 参加者数は全体の80%目標。</p> <p>(2) 就労率は職業コース生徒の70% (R1:100%)</p> <p>(3) 課外活動の定着。毎月開催。コンクール出品、校外の大会、発表会に参加。</p>	
<p>《3げんきよく》人権尊重のもと、安全・安心な学校づくりの推進</p>	<p>(1) 人権尊重のもと、児童・生徒が明るく元気に教育活動を行うことができる安全・安心な学校。</p> <p>(2) 危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ地域やPTAと連携しながら防災教育を実施する。</p> <p>(3) 機動力がある学校運営により、働き方改革を実行する。</p>	<p>ア. 人権研修を実施して不適切な指導がないように取り組む。 イ. 参加体験型研修の実施。</p> <p>ア. マニュアルに基づき訓練を実施して、課題を解決する。 イ. PTA や地域と連携した防災の取り組みの実施。</p> <p>ア. 首席、部主事、分掌長、学年主任を軸とした情報共有の迅速化と徹底 イ. 風通しのよい職場づくり ウ. メールを活用した情報共有の推進</p>	<p>ア. <u>「保」</u>「いじめ」「障がい理解」に関する項目 77.5%→80% H29:83%,H30:79%,R1:77.5%)</p> <p>ア・<u>「教」</u>「防災」に関する項目 85%維持。(H29:70%、H30:78%、R1:85%) イ. 地域、PTA と連携した訓練の実施。(R1:6月に1回実施)</p> <p>ア. 部主事・首席会を活用して学部間の情報共有と部会記録の管理職への回覧。 イ. ストレスチェックの指標 117→115 ウ. 開封率 80%以上</p>	